sousei akita

曹青秋田

秋田名「佛」 ～11教区 円通寺（菅原副会長御自坊）の佛様～

先輩に聴く

長きにわたって、自死問題に取り組んでおられる月（げつ）宗寺住職・袴田俊英（はかまだしゅんえい）老師にお話を聴いてみました。

（聞き手：菊地大樹）

――自死問題へ直結すると思われる「人との繋（つな）がりの変化」について教えて下さい。

農村での人との繋がりが昔に比べて変化した。昔は皆が農村という共同体を維持する為の繋がりであった。しかし、機械化が進み他人の助けが無くても農作業が出来るようになった。煩（わずら）わしい人間関係を構築しなくても生活出来るようになった。逆に人との繋がりがプレッシャーになっている事が、農村の現状。たとえ周りがバラバラであったとしても、自分達が楽しければ良い――というような社会になってしまったように思う。

そこで、新しく人々の繋がりを提供したいと思い、サロン「よってたもれ」を開いている。プレッシャーにならない繋がり方が必要であり、縁側で『ガッコ・チャッコ』するといった昔の楽しい雰囲気を作る為の場にしたいと思っている。

――僧侶として出来る事を教えて下さい。

儀式的な繋がりから一歩踏み込まなければならない。信頼で結び付くことが大切。我々が相談を受けた時に”絶対に秘密を守る“といった信頼関係は特に重要になる。我々は一体感・繋がり感・安心感を与えなければならない。

――私は『自死』と聴くと何となく身構えてしまいますが。

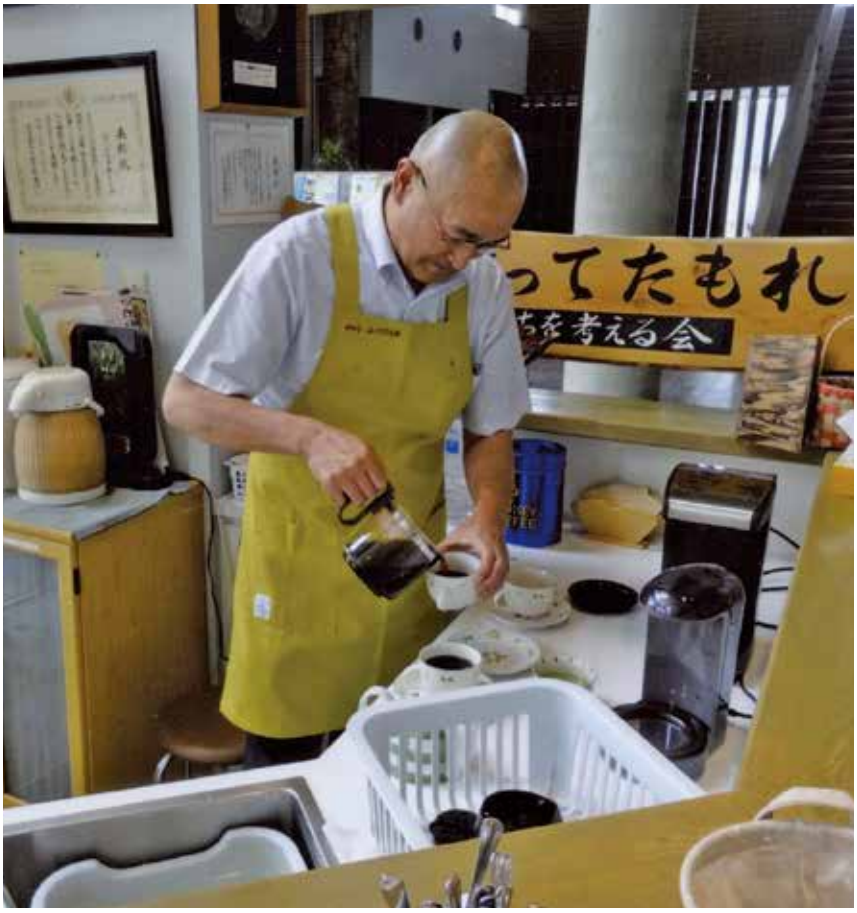
我々が自死をタブー視してはいけない。自死は特別な事ではなく、誰にでもなる可能性のある病気なんだと伝えている。しかし、遺族の方々の自責の念の強さが、自死とその他の死では違うような気がする。自死以外の場合、死を納得しようとする感情が働くが、自死の場合、共有していた時間までも自責の念の為に肯定出来なくなる。遺族の自責の念には配慮しなければならない。

――なぜ秋田県は多いのでしょうか。

高知県や青森県では改善している。青森県では自死対策教育が行われていて、精神科医が学校に行って直接子供達に教える機会を設け

ている。しかし、秋田県では先生達の研修で自死対策を学ぶものの、一部の学校を除き、直接子供達に教える機会は設けていない。秋田県民は自死問題に関してまだ無関心であると感じている。その事が自死対策の遅れに繋がっているのではないか。

昔は東洋人の価値観として、目に見えるものが無くてもプライドを保つことが出来た。しかし今、プライドを保つ為には、お金などの目に見える物が必要になってしまった。金が無くなるとプライドまで無くなってしまう。資本主義に東洋人の価値観が潰されてしまった様に思える。



――自死対策の効果が表れていると思いますか。

介護疲れや経済的悩みによる自死者は、昔に比べると少なくなったように感じる。これは行政などの対策が功を奏している点が大きいと思う。しかし、高齢者と若年層の自死がなかなか減らない。これは生き方の問題に直結すると思う。金中心の世の中において、仕事を終えた高齢者・仕事に就けない若年層が、自分の存在を肯定出来なくなっているのではないか。自分のプライドを保つ事が難しい世の中になっているのではないかと感じている。

そこで、生き方を説く我々僧侶の役割が重要になる。他者のお蔭で幸せを感じられる事・楽しみと幸せは違う事・誰かの為に自分の時間を使う事などを説いていく。今の世の中には合わないかもしれないが、宗教の重要な役目だと思う。効果が出るまで時間はかかるが、自分の事として行動すればきっと良くなると信じている。

――最後に青年会員へメッセージをお願い致します。

これからは、仏教に限らず宗教が益々必要な時代になる。自分達は今の時代において貴重な存在だ――と信じて精進して欲しい。僧侶でなければ出来ない事がきっとある。

白神山地のブナ

東日本大震災物故者慰霊法要に随喜して

副会長　菅原　芳徳

平成二十八年三月十一日（金）、岩手県大槌町の吉祥寺様にて、五年の節目となる慰霊法要に随喜させて頂きました。

正午の打出しにて当会（秋曹青）中村会長導師のもと、吉祥寺ご本尊様に上供する一会を修行した後、震災物故者に対する追善供養を、吉祥寺堂長老師の導師にて厳かに勤められました。法要終了後、方丈様ご挨拶の中で、世界的にご活躍されている指揮者の佐渡裕さんを招き入れ、「震災発生以来の縁であり、大事な友人です。今回の慰霊にも足を運んで下さいました。」とのご紹介がありました。

佐渡氏は本堂大間にて、須弥壇上に祀られている物故者の遺骨・位牌に向かい、鎮魂のフルート演奏をして下さいました。法要もそうですが、その場の空気を震わし、伝えられる音・旋律は、集まっている方々の魂をも慰めて下さるような優しさに満ちておりました。

本堂での法要が終わり、威儀を外用にかえて、波板地区と吉里吉里地区の2班に分かれて、慰霊行脚へと向かいました。

一時間弱の行脚の後、吉里吉里海岸集荷場にて十四時四十六分の防災無線吹鳴を合図に、一分間の黙祷をした後、供養一座を執り行いました。初参加の私には、寒風吹き荒び身に堪えましたが、今年は例年に比べるとまだ穏やかであったとのこと。震災当日はいかに寒さの募る日であったのか…。

各々の心の中に、被災されたお一人お一人の身を想い起こしながらの行脚であり、また追善供養のお勤めでありましたが、亡き方に手を合わせ祈る姿に、上下左右の区別はなく、一心に祈る姿こそが、なによりも尊い仏・菩薩様であると実感致しました。

震災という不条理に遭われた物故者に対しての慰霊と共に、はからずも大事な方を喪失された方々に、前を向き手を携えて生きていく一助となれる様、私達青年僧侶の果たすべき役割はまだまだある―と再確認させて頂いた追悼行持でありました。

合掌

備えあれば憂いなし

第十二教区　満蔵寺副住職　黒木淳祐

自覚大道老師

去る六月七日、曹洞宗秋田県宗務所・禅センターにて弁道会が開催されました。講師は大分県善隆寺副住職・自覚大道老師。中村会長と同安居ということで、和やかな雰囲気で始まった講義でしたが、五年前の東日本大震災、そして今年四月に発生した熊本地震に話が及ぶと、聴講者全員が真剣な眼差しで、老師の話に聞き入っていました。

講義は「災害から家族を、寺院を、地域を守るために今できること」と題し、老師の体験談も交えながらワークショップ形式で行われました。「秋田県沖を震源とする地震が発生し、指定避難所に収容できなかった避難者を、宗務所で研修中だった私たち僧侶が、宗務所を避難所として運営する」という災害設定のもと、①事務局②名簿・受付班③連絡・広報班④食料班⑤物資班⑥保健・安全班の六班に分かれ、避難所内で発生した二十の課題に取り組みました。

私は物資の調達と受け入れ・管理をする物資班を担当。事務局に相談し、物資を管理する場所を確保、その上で受入簿を作成し在庫の把握をし、不足しているものがあれば、連絡・広報班を通じて外部組織に要請するなど、課題への対応には各班との連携が不可欠であることを実感しました。

その一方で「実際の現場、とりわけ発生直後の、情報が錯綜し混乱した状況で、避難所を立ち上げることが本当にできるのだろうか」「矢継ぎ早に上がってくる避難者の課題にどこまで応じてあげられるのだろうか」「そもそも運営に当たっている私自身被災者として、家族の安否も確認できない中で、避難所の運営にどれだけ心血を注げるのだろうか」とシミュレーションしながら様々な不安が募りました。

しかし講義の結び、「苦しみ辛さを抱えた人たちに寄り添う宗教者として、いざという時にはお寺を避難所として開放し、避難者を受け入れる立場にあって欲しい」という老師の言葉にハッとさせられました。宗教者としての立場。日常生活における宗教者としての生き方が、あらゆる場面にそのまま表れます。つまり檀務や作務といった僧侶としての日送りこそが、災害に対する心の「備え」となるのです。

講義を終えて切に願うのは、やはり災害は起こらないでほしいということ。しかし起こったその時には、宗教者としてすぐに対処できる私でありたいということです。そのためにも「宗教者としての私」を今一度見つめ直し、さらには講義でいただいた「寺院備災ガイドブック」を参考にして、物質的な「備え」も進めていきたいと思います。

自覚老師曰く「災害発生当初に必要とされるのは、水と電気です。一人一日当たり約二リットルの水が必要で、一週間分ならば一ケース（六本入り）、それを家族の人数分用意して下さい。そして電気は車から電源をとれるようにパワーインバーター等を車に常備して下さい。」

備えあれば、憂いなし。皆さん、共に備えましょう！

平成27年度　秋田県曹洞宗青年会収支決算書

自　平成２７年４月　１日
至　平成２８年３月３１日

総収入	2,217,186
総支出	1,631,049
収支残高	586,137

収入の部

単位：円

項　目	27年度予算額	27年度決算額	増　減	摘　要
1　会費	1,145,000	1,218,000	73,000	
1.年会費	645,000	670,000	25,000	5,000円×134名
2.賛助会費	500,000	548,000	48,000	
2　補助金	500,000	500,000	0	宗務所補助
3　寄付金	1,000	0	▲ 1,000	
4　雑収入	1,061	80,247	79,186	受取利子・添菜等
5　繰越金	418,939	418,939	0	前年度繰越金
合　計	2,066,000	2,217,186	151,186	

支出の部

項　目	27年度予算額	27年度決算額	増　減	摘　要
1　事業費	1,150,000	677,219	▲ 472,781	
1.研修費	800,000	466,487	▲ 333,513	弁道会・随聞会・住職学研修
2.広報	350,000	210,732	▲ 139,268	会報・HP運営等
2　事務費	240,000	224,830	▲ 15,170	
1.事務記録費	40,000	54,893	14,893	事務用品等
2.通信費	130,000	90,890	▲ 39,110	各種案内発送等
3.交際費	50,000	64,511	14,511	祝賀等
4.慶弔費	20,000	14,536	▲ 5,464	電報等
3　事務局費	40,000	40,000	0	事務機器使用経費
4　会議費	40,000	20,000	▲ 20,000	
1.総会	20,000	20,000	0	総会補助
2.役員会	20,000	0	▲ 20,000	代議員会等
5　負担金	179,000	194,000	15,000	全曹青会費・東北地協会費
6　補助金	300,000	375,000	75,000	出向補助等
7　積立金	50,000	100,000	50,000	東北大会準備金
8　予備費	67,000	0	▲ 67,000	
合　計	2,066,000	1,631,049	▲ 434,951	

平成28年度　秋田県曹洞宗青年会収支予算書

自　平成２８年４月　１日
至　平成２９年３月３１日

総収入	2,258,000
総支出	2,258,000
収支残高	0

収入の部

単位：円

項　目	27年度予算額	28年度予算額	増　減	摘　要
1　会費	1,145,000	1,170,000	25,000	
1．年会費	645,000	670,000	25,000	5,000円×134名
2．賛助会費	500,000	500,000	0	
2　補助金	500,000	500,000	0	宗務所補助
3　寄付金	1,000	1,000	0	
4　雑収入	1,061	863	▲ 198	受取利子・添菜等
5　繰越金	418,939	586,137	167,198	前年度繰越金
合　計	2,066,000	2,258,000	192,000	

支出の部

尚、各項目間の流用を認めるものとする。

項　目	27年度予算額	28年度予算額	増　減	摘　要
1　事業費	1,150,000	1,050,000	▲ 100,000	
1．研修費	800,000	800,000	0	弁道会・随聞会・住職学等
2．広報	350,000	250,000	▲ 100,000	会報・HP運営等
2　事務費	240,000	250,000	10,000	
1．事務記録費	40,000	40,000	0	事務用品等
2．通信費	130,000	130,000	0	各種案内発送等
3．交際費	50,000	60,000	10,000	祝賀等
4．慶弔費	20,000	20,000	0	電報等
3　事務局費	40,000	40,000	0	事務機器使用経費
4　会議費	40,000	40,000	0	
1．総会	20,000	20,000	0	総会補助
2．役員会	20,000	20,000	0	代議員会等
5　負担金	179,000	179,000	0	全曹青会費・東北地協会費
6　補助金	300,000	600,000	300,000	出向補助等
7　積立金	50,000	50,000	0	東北大会準備金
8　予備費	67,000	49,000	▲ 18,000	
合　計	2,066,000	2,258,000	192,000	

※4月に発生した熊本地震の被災地支援の為、浄財を勧募しましたところ、　多くの方々に御賛同頂きました。
うち、熊本県曹青へ27万円･大分県曹青へ10万円を寄付致しました。ここに報告の上、厚く御礼申し上げます。

コーヒーサロン「よってたもれ」見学

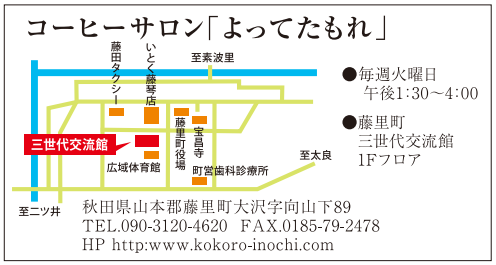
コーヒーサロン「よってたもれ」は、袴田俊英老師が会長を務める「心といのちを考える会」が運営しています。この会は、藤里町という人口三千六百人あまりの小さな町に生まれた、自死予防を目的とした集まりであるとの事です。現代の「ガッコ・チャッコ」がどのような雰囲気になっているのか興味があり、「よってたもれ」に寄って来ました。

毎週火曜日の午後一時半から四時まで開店していると聴き、二時半頃寄ってみました。藤里町の三世代交流館一階にて活動しているとは聴いたものの、藤里町に馴染みの無い私は、途中迷いそうになりました。着いてみると役場や体育館が隣にあり、藤里町の中心に位置していることに気づきました。平日の午後でもあり、客はほとんどいないだろうと予想して館内に入りました。カウンターと四人掛けの机が三つあって、すでに六人の客がコーヒーを飲みながらボランティアの店員さんと談笑していました。カウンターに座ると店員さんがコーヒーを入れてくれ、話相手になってくれました。店内はとても明るく、店員さんはニコニコしてとても話しやすい雰囲気でした。美味しいコーヒーの支払いは募金制になっており、カウンターに置いてある貯金箱に自分で値段を決めて入れる―というシステムでした。常連客はもちろん、隣の体育館で運動した後に立ち寄る方や、店員さんに声をかけられて寄っていく方が、代わる代わる来店していました。コーヒーサロンの繋がりのお蔭で、奥様を亡くした寂しさが少し癒えたと語る方や、自分で育てたブルーベリーを差し入れに持ってくる方もいました。"プレッシャーにならない繋がり"とはこの様なものかも知れない―と思っていたところに、袴田老師が来店しました。コーヒーを飲みながら様々な話を聴いた後、老師はエプロンを着けカウンターに立ち、店員さんの手伝いを始めました。シティーハンターに登場する「海坊主」のようでありながら、ある時には話を振り、またある時にはじっと話を聴いているといった様子でした。

平成十五年五月にコーヒーサロンを開設し、以来様々なコンサートや勉強会を行うなど、精力的に活動しています。ボランティアは約二十名で、四人一組になって毎週火曜日のサロンを切り盛りしているそうです。この日手伝っていた店員さんは、法事の際に宝昌寺住職・新川泰道老師からスカウトされたそうで、店員さんの明るい雰囲気に感心するとともに、声をかけた宝昌寺さんもよく人柄を観察しているものだと思いました。"僧侶として協力出来る事が様々ある"と実感しました。

気が付くと一時間半があっという間に過ぎていました。ここの居心地が良いからでしょう。現代の「ガッコ・チャッコ」はガッコが差し入れのブルーベリーに、チャッコが美味しいコーヒーに変わったものの、とても居心地の良い場でありました。藤里町に「一人ぼっちだ」と感じる人が一人もいないことを目指して活動しているそうですが、秋田県全域にこの様な活動が広まったら、きっと自死者も減るだろうと実感しました。

（菊地大樹　記）



曹青秋田／第81号
発行／秋田県曹洞宗青年会
事務局／秋田市寺内神屋敷11-6 西来院内　発行責任者／中村卓道　編集責任者／菊地大樹
秋曹青ホームページ　http://www.sousei-akita.net/